

■ 慰労に感謝。投票率の違いは民度の差ではなく宣伝の量と迫力の差だと

日時: 2004/09/25 16:59:30 名前: 戸田

さて、門真の38.58%という低い投票率は確かに情けない事実ではありますが、戸田としてはこれを門真と守口の民度の差とは、あまり考えていません。「門真の市民意識の方が守口よりも相対的には進んでいる」、とすら戸田が考えていることは既に述べた通りです。それではなんでこんなに大きな差が出てしまったのかという事です。戸田としては、それは50%条項付きで住民投票条例が決まったあとの7月8月段階での「住民投票に行こう!」とか「合併反対」という宣伝の量と迫力の差だったと考えます。

守口では6/9市議会で50%条項付きで住民投票条例が決まったあと、50%突破のために猛烈で広範な運動が展開されました。

ここでのポイントは

- 1; 三浦さんをひとつの基軸に、「住民投票推進・合併反対慎重」の会派合同が進んで、それが4人会派から議長を含んだ7人会派にまで拡大し、共産党の4議員と合わせて11人の現職議員が実質的に合併反対で動く体制になったこと。

さらには元自民党市議の山下さんら保守有力者も運動の前面に立ち、前市議で市長選を闘った今西議員勢力も独自の立場で合併反対・反喜多市長で動くという有力元議員勢力もこれに加わって力を出した。

- 2; 運動側が非常に良いセンスを発揮して、「合併にファイナルアンサー」ステッカーや、「チャレンジ50」ポスター、そして「うちわ投票に行くで」ウチワ、「合併反対に○を」ステッカーなどを7月段階から大量に貼り出し・配布したこと。

特にファイナルアンサー」ステッカーや「チャレンジ50」ポスターは大好評で、貼り出しの数ももの凄かった。両市を行き来する人は誰でも「守口は凄いいけど門真は全然」との感想を持ったことだろう。(街の雰囲気全然違う!) また4万作ったウチワも大好評で、自治会を通じてとか、盆踊り・夏祭りを通じてそれぞれ飛ばすようにさばけていった。

- 3; そして猛暑の8月1日から、三浦議員、生島議員、作田議員らの「さわやか守口清風会」7人会派による連日の街頭演説宣伝である。この宣伝パターンは基本的には住民投票本番までずっと継続させたい。

数人の議員がズラリと街頭に立って汗だくになりながら一生懸命に合併反対・住民投票に行こうと訴える姿は市民にその懸命さをズッシリと伝えたはずだ。(共産党4議員は個別訪問や街頭練り歩きを中心に宣伝)

- 4; 8/3に独自の合併問題シンポを開いて約500人が結集。

これに対して7/28本会議で同様の住民投票条例が決まった門真の場合は、と言うと、

- 1; 合併反対で動く議員勢力としては戸田と共産党5人の現職計6人のみ。

(守口では自民党や民主党や保守でも合併反対に動く議員がいるのに、門真のヘタレ与党議員はみんな公明党と大本議員になびいて合併賛成の席に座って動かない!)

- 2; 「合併への賛否を問わず住民投票の投票率アップを責務とする」運動体たる「門真未来の会」(市職労が主軸)の「住民投票に行こう」グッズが貼り出されたのは8月下旬から。(当局の8/13の「9/19住民投票実施」発表を受けて) この小さなステッカー以外に「住民投票へ行こう」と呼びかける宣伝グッズはなし。

共産党も同時期に「住民投票へ行こう」と「合併反対」の独自ポスター。

- 3; 戸田ら「合併反対! 門真市民の会」が「合併反対に○を!」のステッカー1万枚を発注したのが8/19、到着が8/25、貼り出しはそれ以降。

- 4; つまり、門真では8月下旬までは「住民投票へ行こう」を呼びかけるポスター類は何も作られなかった!ウチワなどの守口で大好評のグッズもついに作られなかった。

つまり、多くの門真市民にとって8月は「新市名公募決定と合併推進パンフで合併決定と錯覚させられた8月」であって、街角で住民投票運動や合併反対運動を目にすることがほとんどなかった、ということになる。

- 5; 戸田は、6月半ばでの事務員退職・交替人員探しと新体制開始での不慣れ状態が続いたことと、宣伝物作成や宣伝カー手配等全て一人でやらなければいけない事情の中で、街頭宣伝に立つ時間が非常に取りにくい状態がずっと続いた。三浦さん達に較べればほとんど街頭演説ができていない、と言ってもよいほどだ。

- 6; 戸田陣営では連帯ユニオンの支援を受けて、8/1からは「毎日宣伝カー4台(実質3.5台)体制にして一部守口市も含めて車宣伝を継続させた。車への宣伝文句掲示は万全だったが、時間の長さや運行コース密度は必ずしも十全とまでは言えない。

他陣営の宣伝カーについては、車への宣伝文句掲示がほとんどなく(せいぜいステッカー程度)、住民投票本番近くになるまではその数も少なかった。

■ っていうか、強固な合併反対派を排除しての「合併反対運動」とは？

日時: 2004/08/17 12:05:20 名前: 戸田

さて、合併反対運動を進めて住民投票で合併を阻止するために「合併反対連絡会」を作ろうと言うのなら、合併賛成の人やどっちつかずの人は除外して、はっきりと合併反対・合併阻止の意識を持った人達や勢力を結集させるのが当然である。

ところが！ 市職労が仕組んだ（そして共産党も同調し、他「民主団体」も同調した）「合併反対（秘密）連絡会」は、戸田や「合併反対！門真市民の会」というもっとも鮮烈に合併反対を掲げて行動してきた部分を意図的にのけ者にして、結成されようとしたのである。

（また竹内社長グループの新しく名乗りを上げた合併反対勢力も除外した。門真建設には声をかけたようだが・・）

個人の自慢ではなく、事実経過としてこの際ハッキリさせておくが、門真市で最も早く合併話に批判を突きつけ合併反対！の声を上げ宣伝行動を起こしたのは、この戸田であり、それは2002年の2月段階ころから既に始まっている。

合併反対・阻止を様々な角度から訴える正規の「ヒゲ戸田通信」や「ヒゲ戸田通信」臨時号の配布は、この2年半で約20種類25万部にも及んでいるし、HPでの記事も膨大である。

そして戸田の呼びかけで2003年12月に結成された「合併反対！門真市民の会」は、（これも全て戸田が作成した）「合併反対通信」を7号総計約15万部配布している。

ちなみに共産党が「門真守口合併に反対」を表明したのは、2003年12月になってからであり（昨年末になってようやく！その前の2002年11月には一般論的に「国の押し付けによる合併には反対」として門守合併に疑問を提示）、

その後もピラでは住民投票実施要求と合併への疑問提示が主軸で、合併阻止という線での主張は極めて弱い。

現在合併反対特集のピラを配布しかけているらしいが、それ以前には合併反対特集のピラは今年3月に発行しただけである。

市職労は「組織としては合併反対」を決めたとは言え、「市民から誤解を受けることを考慮して」、HPで見解を表明しつつも合併反対を大衆的なピラなどで訴えることは控えて、住民投票実現に力点を置いた活動をしてきた。その他の「民主団体」に至っては、これまで一度も合併反対を組織決定したり、それをピラにして配布したりしたことはなかった。（もし違っていたら教えて下さい）

つまり、市職労や共産党の考える「合併反対のための全市民的な共闘団体」というのは、最も早くから鮮明に合併反対を訴えきた戸田を除いて、最も大衆的に個人の意志で合併反対を表明してきた「合併反対！門真市民の会」も除いて、さらには新しく合併反対で宣伝カーまで回し始めた竹内社長らも除いて、自分らの身内の集合だけで「合併反対の幅広い共闘」を僭称するものであり、実態は「合併阻止闘争の弱体化」でしかない。

市職労や共産党は、こんなことを良しとして「秘密連絡会」結成を進めようとしたのだろうか？
合併阻止を本当に実現するための本当に有効な共闘づくりのためにはどうすれば良いのか、市職労や共産党は「合併反対！門真市民の会」からの7/20共闘申し入れ文をじっくり読み直して、冷静かつ真摯に考えて欲しい。

~~~~~

## ■ 「対公明党・創価学会の意識解放運動」としての合併反対運動の側面

日時: 2004/09/14 15:55:22 名前: 戸田

公明党・創価学会が「普通の地域生活空間の中ではおそらく日本一多い」門真市では、公明党・創価学会の人々の目を気にして、「うかつに物が言えない」という萎縮した意識を持っている住民が非常に多い。

戸田が改めて驚いたのは、「合併反対を口にしない」どころではなく、「創価学会・公明党の人達が住民投票に行かない中で自分が住民投票に行くのは、回りから白い目で見られるようで、ものすごく行きにくい」という感覚を持つ人が結構いる、ということだ。

これなどはちょっと被害妄想的と言えなくもないし、創価学会・公明党の人々も「自分らそんなことしてないのに」と文句を言いたくなるかもしれないが、人の感情としてそういう感情を抱いている人が門真には結構いる、という事実は注目しておかなければならない。

言わば、創価学会・公明党に対するタブー意識、トラウマ意識。創価学会・公明党の人々が門真の人口のせいぜい12%前後しかしないのに、半分以上がそうであるかのように思い込んでいる萎縮の意識。

「合併過激派」の公明党の動向に反して合併反対を進める運動というのは、こういうマイナスの意識から地域大衆自信が目覚め解放されていく意識変革運動としての側面を持っている、と戸田は分析している。

「数の力で何でもできる」と思っている門真の公明党。「公明党・創価学会の数の力には到底かなわない」と諦めてきた地域住民。住民投票によって合併を阻止できたら、その双方の意識が確実に良い方向に、住民が自尊心を持てる方向に変革されていくことは間違いない。

これはまた、「地域ボス」・「エライさん達」に対する住民の意識においても同様である。

だから戸田は「合併反対運動が地域の意識をガラリと変える」と考えている。